

ご 挨拶

2019年5月8日（水）～5月11日（土）までの4日間、大阪国際会議場（グランキューブ大阪）ならびにリーガロイヤルホテル大阪にて第120回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を開催いたします。本会を鹿児島大学が担当するのは初めてのことであり、大変名誉なことと心より感謝申し上げます。また、会長の所在地とは離れた都市で本会を開催するのも初めてであり、その重責を感じながら、是非とも成功させるべく教室と同門会が一丸となり、そして日耳鼻鹿児島県地方部会の協力とご支援を受け、鋭意準備を進めて参りました。

プログラムですが、宿題報告は今回3講演とし、宿題報告1は島根大学の川内秀之教授による「鼻副鼻腔炎症病態の制御に向けた免疫薬理学的アプローチ」、宿題報告2は神戸大学の丹生健一教授による「頭頸部がんの最適化医療—根治とQOLの両立を目指して—」、宿題報告3は聖マリアンナ医科大学の肥塚 泉教授による「超高齢社会におけるめまいと平衡障害への対応」です。いずれも耳鼻咽喉科・頭頸部外科学において重要な課題であり、各分野のリーダーのお一人であるご本人と各教室が長年取り組んでこられた研究の集大成、そして最新の知見を拝聴できるものと楽しみにしております。

シンポジウムならびにパネルディスカッションは従来の日耳鼻そして会長による企画だけでなく、新たな試みとして日耳鼻の関連する学会に立案を要請し、シンポジウムを10、パネルディスカッションを7つ設けました。それらを列挙すると、シンポジウムはアテネオリンピック競泳銅メダリストの中西悠子選手を招待しての「スポーツと耳鼻咽喉科」、延世大学のKim教授を交えた「ロボットおよび経口的頭頸部腫瘍手術の現状と展望」、男女共同参画企画として「耳鼻咽喉科医として働く女と男の本音と建て前」、「耳鼻咽喉科としての認知症への対応」、「発声・発語障害の評価と対応」、「喉頭・咽頭逆流症の現状」、「顔面神経麻痺の治療と後遺症への対応」、「耳鼻咽喉科領域のワクチン研究最前線」、「耳科領域における再生医療最前線」、「嚥下障害診療における医療連携」を、パネルディスカッションは、ニューサウスウェールズ大学のHarvey教授をシンポジストに加えた「内視鏡下鼻内副鼻腔手術の基本的な手技とその応用」、「耳鼻咽喉科診療における感染対策」、「慢性めまいへの対応」、「アレルギー性鼻炎に対する免疫療法の将来展望」、「小児の難聴とウイルス感染」、そして2つの「AMED研究」を企画し、会員の多様なニーズに応えることができました。しかし、これまでにない多くのそして興味深いプログラムを並列で組んだため、どれを聴講しようかと迷われるかもしれません。その際は、是非ともご自分が専門としない領域のセッションに参加されることをお勧めします。それが今回、関連する学会から提案していただいたテーマを多数取り上げた最大の理由であり、そうすることによって関連する学会の現在の取り組みを知り、新たな発見があると思います。

特別講演は、学術講演会初日の開会式に続いて、カリフォルニア大学サンディエゴ校および東京大学教授の清野 宏先生に「粘膜免疫学創生から未来型ワクチン開発へ」（領域講習）と題してお話しいたします。粘膜免疫学の世界的第一人者であり、現在、経口そして経鼻ワクチンの臨床研究に着手されており、その将来展望をお聞きできるものと思います。学術講演会2日目の夕には、JAXA鹿児島宇宙センター所長の藤田 猛氏による「日本のロケット～その歩みとこれから～」(専門医共通講習)についてご講演いただきます。2014年12月3日にこの宇宙センターから打ち上げられた「はやぶさ2」が先日、小惑星「リュウグウ」へのタッチダウンに成功し、日本のロケット技術が国際的に高く評価されています。その決してミスが許されない徹底した安全管理の考え方は医療にも通じるものがあり、宇宙に夢を馳せるとともに、そうしたことも学べると期待し

ています。また、昨年から行われるようになった会長講演では、「扁桃周囲膿瘍の病態と治療のエビデンス」をテーマに教室のこれまでの研究成果をまとめて講演させていただきます。

学術講演はすべて領域講習とし、「メニエール病の診断と治療」、「好酸球性副鼻腔炎の診断と治療」、「睡眠呼吸障害の診断と治療」、「難治性中耳炎の診断と治療」、「嚥下障害の診断と治療」、「内耳奇形の診断と治療」、「高齢者頭頸部癌への対応」の7つの講演に加え、韓国と台湾そしてわが国の新進気鋭の耳鼻咽喉科・頭頸部外科医を招き、耳科、鼻科、頭頸部外科領域に関する「国際シンポジウム」6つの講演を学術講演会2日目と3日目の午前に行います。いずれも日常診療で問題となる重要な疾患であり、その最先端の情報を知ることができます。

領域講習でないプログラムはすべてセミナーと称することとし、より実践的なテーマを取り上げました。教育セミナーは「難聴の診療におけるピットフォール」、「上気道感染症に対する抗菌薬の選択とそのエビデンス」、「小児滲出性中耳炎の治療とそのエビデンス」、「口腔乾燥症の診療における留意点」、「頸部腫瘍の診察におけるピットフォール」、「嗅覚・味覚の基礎と臨床」、「慢性咳嗽の診療におけるピットフォール」の明日からの臨床に役立つ7つの講演を、モーニング手術手技セミナーは若手の先生に手術の基本的な手技を学んでいただくこと「甲状腺手術」、「頸部郭清術」、「内視鏡下鼻内副鼻腔手術」、「耳下腺手術」、「音声外科手術」、「中耳手術」の6つのテーマを取り上げました。ランチョンセミナーは「耳鼻咽喉科感染症に対する薬剤耐性（AMR）対策」、「アレルギー性鼻炎治療における抗ヒスタミン薬の最新情報」、「めまい治療の最近の話題」、「舌下免疫療法—成人および小児季節性アレルギー性鼻炎の克服を目指して—」、「鼻副鼻腔疾患の診断・手術におけるコーンビームCTの活用」、「味覚障害の診療の基本とその実践」など計25題、さらにハンズオンライブセミナー「Outside-in technique/Vascular injury workshop」を企画しました。

学術講演会の最終日には専門医共通講習として、「iPS細胞研究の倫理（医療倫理）」、「医療安全への2つのアプローチ：Safety-I & Safety-II（医療安全）」、「感染症の病態から考える適正抗菌薬使用（感染対策）」を並列で開催します。いずれの講師もその分野に極めて造詣の深い先生であり、学術講演会の最後を飾るにふさわしい素晴らしいご講演を拝聴できるものと思います。また、一般演題（口演・ポスター）574題もすべて内容に優れ、その発表が楽しみです。その他、医学生・臨床研修医のためのセッションとハンズオンレクチャー、機器展示会場では最新の医療機器の特徴を分かりやすく解説してもらおうブースセミナーを開催します。

今回は改元後最初の日耳鼻総会・学術講演会となりますが、大型連休明けのため参加者が少なくなるのではないかと懸念しています。そこで、会員懇親会で「霧島九面太鼓」を披露し、鹿児島県PR・観光戦略部の協力を得て会期中に「かごしまフェア」を開催するなど、大阪での開催ではありますが、鹿児島の文化と食材でおもてなしし、魅力溢れるそして新たな時代の幕開けにふさわしい総会・学術講演会にしたいと考えています。多くの会員の皆様と大阪でお会いするのを楽しみにしています。

第120回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会会長
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

黒野 祐一